

1. 件 名：日本原子力発電株式会社敦賀発電所の原子力事業者防災訓練の事前説明について
2. 日 時：令和5年11月27日（月）10時00分～12時05分
3. 場 所：原子力規制庁3階 室内会議卓
4. 出席者（テレビ会議システムによる出席）
原子力規制庁
緊急事案対策室
川崎企画調整官、反町専門職、嶋崎専門官、澤村専門官、沼田専門職、五十嵐室員
敦賀原子力規制事務所
林原子力防災専門官
日本原子力発電株式会社
発電管理室 警備・防災グループ グループマネージャ 他5名

5. 要 旨

日本原子力発電株式会社（以下「日本原電」という。）から、令和5年12月8日及び11日に予定されている同社敦賀発電所における原子力事業者防災訓練の計画概要に関して、前回の面談時（11月8日）の原子力規制庁からのコメントを踏まえて修正した内容について、資料1に基づき説明があった。

原子力規制庁から評価者が評価指標の「評価対象の考え方など」に従って適切に評価できるよう、改めて以下についてコメントした。日本原電からは本日の面談でのコメントを踏まえ、説明資料への反映など必要な対応を行う旨の回答があった。また、12月8日の訓練実施までに、日本原電の対応状況を確認するための面談を再度調整することとした。

- ・ 訓練2日目（12月11日）に、本部運営訓練（発電所）として本部長他の要員の交代を想定した引継が適切に実施できるかや、交代直後に発生した事態を踏まえた進展予測・事故収束対応戦略の立案・決定ができるかを検証する訓練を予定しているが、訓練想定を踏まえて期待する要員の対応、訓練のねらいや検証のポイントが未だ不明確であり、具体的にどのようにして訓練評価を行うのか理解しがたいので、再度整理すること。
- ・ 「指標2：ERCプラント班との情報共有」に関して、リエゾンやERC対応スピーカを含めた要員の育成・配置計画の抜粋の説明があったが、社内決定文書であることや休日夜間の当番体制・力量設

定の考え方が分かるよう資料を整理して提示すること。

- ・「指標6：シナリオの多様化・難度」に関して、訓練プレイヤーに対して難度の高い課題が与えられているか未だ不明確なので、インプットする条件設定の中でプレイヤーに対してどのようにして判断を悩ませるか、訓練のねらいと効果をどのように設定するのか、再度整理して具体的に提示すること。
- ・「指標9：緊急時対応組織の能力向上」に関して、海上保安庁との連携訓練を調整しているが、事業者防災業務計画の枠組みの中で連携の内容等が具体的に決まっていない中での訓練であり、指標9での訓練評価として成立するのか現時点では不明。まずは海上保安庁と緊密な意思疎通を図り、どのような連携ができるか意見交換等を行うことが重要ではないか。

6. その他

配布資料：

- 資料1 敦賀発電所原子力防災訓練計画事前説明に係る面談（5週間前）
時の確認事項の修正箇所について（日本原子力発電株式会社）